



N A W C C
108.CENTRAL TOKYO
古典時計協会

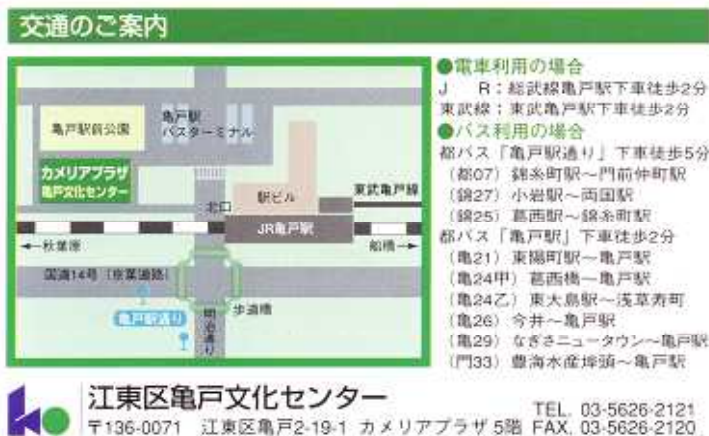
平成 21 年 3 月例会 3 月 22 日(日) 13~17 時

前回の会報で日付が誤っておりました。正しくは 22 日(日)です。

江東区亀戸文化センター(カメラアプラザ)5F 第2研修室

江東区亀戸 2-19-1 03-5626-2121

JR 総武線 亀戸駅下車 徒歩 2 分



次回例会日程

4/26(日) 江東区亀戸文化センター(亀戸)5F 第1研修室 13時~17時

5/24(日) 場所は未定ですが、通常の例会でなく見学会を予定しています。

6/7(日)時の記念日特別例会 江東区商工情報センター(亀戸)9F 10時~17時



2月例会報告

2月の例会は22日、江東区砂町文化センターで開催され、38名の参加となりました。

尚、盛岡セイコーの大平さん、ゲスト参加の丹下さん、桑名副会長よりお茶菓子をいただきました。ありがとうございました。

桑名副会長より ミネルバ・ストップウォッチ



中央競馬の騎手として活躍され、現在は調教師をしておられる加賀 武見氏所有のストップウォッチです。桑名副会長のところへ、ご本人が修理依頼で持参されたそうです。

画像でもわかりますが、腕に巻いた状態で騎乗して、手綱を持ったまま、発走と同時に手首を上跳ね上げるにより、ストップウォッチがスタート出来るという構造です。

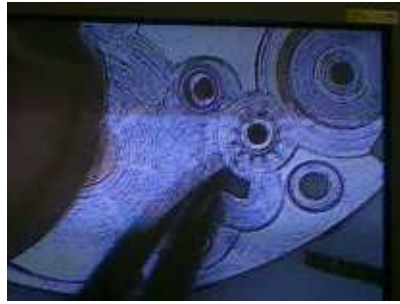
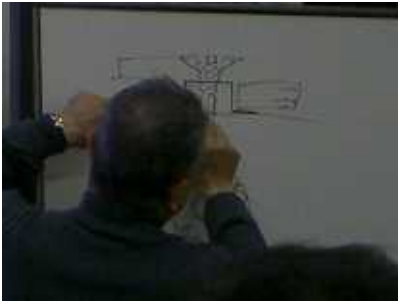


岡 直樹さんより 金無垢懐中時計



クレー射撃競技会の景品として贈与されたものだそうで、大変珍しい形状の緩急針が付いています。欧米において、クレー射撃は貴族階級のスポーツとして認識されており、この時計も造りの良さや金無垢であるということから、上流階級層への賞品として相応しいものであることがうかがえます。1904年の刻印がありますが、分割された輪列受や、角穴車がウルフ・ティースと呼ばれる独特の歯形をしている事など、この時代の時計としてはやや古い保守的な構造をしています。

加藤会長の旋盤講座 ロレックス cal.3000/3035 巻上げ車ピボット作成



今回は俗称“へそ”と呼ばれている、地板に削りだされているホゾが歪んだときの対処法として、自作のキリで傷んでいる部分を取り除いて、新たにパイプ状のものに雌ネジを切っかして、以前に会の中で取り寄せ販売した高機能ハンダで補強するところまでを、詳細な説明を交えていただきながら実演していただきました。

山崎 伸さんより 和時計のジャンク



博物館などでしか見る機会がない和時計を拝見させていただけるのも、この会ならではです。

こちらは安く手に入れられたそうで、こういったものを手に取り仕組みを理解するのにジャンク品という選択は有効な手段ではないかと思われます。

増田 精一郎さんより ハンドメイドウォッチ



知り合いの方のお店をモデルに作られたものをお持ちいただきました。

ムーブメントは既成のクォーツですが、外装関係は全てご自分で作られているとの事で、なかなか洒落たデザインで楽しませていただきました。



大杉事務局長より 街灯型クロック

珍しいコレクションをお持ちいただきました。
RUE DE LA PAIX（幸せ通り）と呼ばれる置時計です。
お持ちいただいたのはルクルト製とのことでした。
後に国産の時計会社も似たものを出していますが、
その元となっている時計ではと思われます。
鋳物製で手にズシリと来て、ヴィンテージの味わいが
深く感じられるコレクションでした。

当会のホームページアドレスは、<http://nawcc108.kkjp.com/> です。